

審議会等の会議結果報告

1 会議名	令和5年度津市献血推進委員会会議
2 開催日時	令和5年8月17日(木) 午後2時から午後3時まで
3 開催場所	津図書館 研究会議室
4 出席した者の氏名	(津市献血推進委員会委員) 東良久委員、上野利通委員、横田明人委員、松原年生委員、樋口奈津子委員、舟橋裕子委員、田中想乃委員、野口裕介委員、山本潤子委員、山尾陽彦委員、秋葉幸伸委員、櫻井洋委員 (事務局) 健康医療担当理事 勢力実 地域医療推進担当参事 濱田耕二 地域医療推進室長・こども応急クリニック・休日デンタルクリニック所長・久居休日応急診療所長・応急クリニック所長 福島奈津 地域医療推進室地域医療担当副主幹 稲森英里 地域医療推進室地域医療担当副主幹 浦川裕充
5 内容	(1)会長及び副会長の選任について (2)令和4年度津市献血推進事業実績報告について (3)令和5年度津市献血推進事業計画(案)について (4)令和4年度献血者の動向について (5)津市骨髄移植ドナー支援事業について
6 公開又は非公開	公開
7 傍聴者の数	0名
8 担当	健康福祉部地域医療推進室地域医療担当 電話番号 059-229-3372 E-mail 229-3372@city.tsu.lg.jp

議事の内容 別紙のとおり

事務局	<p>定刻となりましたので、会議を始めさせていただきます。</p> <p>本日は大変お忙しいなか、委員の皆様におかれましては、令和5年度の津市献血推進委員会に御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>今年度は委員改選の年となっております。本日、本委員会の会長が選出されるまでの間、私、地域医療推進室長の福島が進行役を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。今回から委員になられる方もみえますので、先ず、はじめに津市献血推進委員会につきまして簡単にご説明させていただきます。「津市献血推進委員会設置要綱」をご覧ください。当委員会では、安定した血液確保のための献血活動の推進及び献血思想の普及に関して広く意見を聴くために設置されたものであります。当委員会でご検討いただく事項は、(1) 献血計画の実施に関する事、(2) 献血思想の普及に関する事、(3) その他献血活動の推進に関する事、ということとなっております。例年、年1回の会議を開催しております。任期は、皆様のお手元に配付させていただきました委嘱状にありますように2年間で令和7年7月31日までとなります。構成は、17人以内の委員で構成することとなっております。今回は13人の方に委員を委嘱させていただきました。それでは、委員にご就任いただきました皆様方のご紹介をさせていただきます。それでは委員名簿の順にご紹介をさせていただきます。</p> <p style="text-align: center;"><b>【委員紹介】</b></p> <p>続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。</p>
健康医療担当理事	<p>最初に、健康医療担当理事の勢力よりご挨拶申し上げます。</p> <p>皆様こんにちは。健康福祉部健康医療担当理事の勢力でございます。本日は何かとお忙しいところ令和5年度献血推進委員会にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。委員の皆様におかれましては日頃より各分野におきまして市行政推進のため多大なるご理解・ご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。今年度は委員改選の年ということでございまして、昨年度から引き続き委員になっていただいた方、また今年度から新たに委員になっていただいた方もおみえになりますが2年間どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>さて、献血の推進につきましては血液法によりまして国、地方公共団体、採血事業者の責務が定められております。関係機関において様々な取組が行われているところでございます。国においては医療ニーズの変化や将来の人口推移から今後血液需要が増加し、必要となる献血者数が現状の実績を</p>

	<p>上回ると試算されており、令和3年度から令和7年度までの5年間の取組として若年層対策の強化を重点においた中期目標を設定しております。一方現下の全国的な献血の傾向といたしましては少子高齢化に伴います人口減少が進む中で特に若年層の献血率の減少が続いており、三重県全体の献血率におきましても同様の傾向にあり厳しい状況にあります。そのような中で献血バスの出張先の確保が困難な新型コロナウイルス拡大期にあっても県内において必要な血液量を確保することができたとお聞きしております。これもひとえに三重県赤十字血液センターの取組をはじめ企業等における職場献血へのご協力等、皆様方が献血者確保に向けてご尽力をいただいている結果であると捉えております。市といたしましても将来にわたる安定した血液の確保に向けまして献血の大切さを市民の皆様にご理解いただき献血にご協力いただけますよう今後も皆様と連携して献血推進に取り組んでまいりたいと考えております。本日は忌憚のないご意見・ご助言をいただきますようどうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>こちらの会議の事務担当につきましては地域医療推進室がさせていただきます。地域医療推進担当参事の濱田、担当副主幹の稲森、同じく担当副主幹の浦川、そして私、室長の福島でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。ではこちらからは座って失礼します。事項に入らせていただく前に、本日は当委員会委員の過半数の出席をいただいておりますので、津市献血推進委員会設置要綱第6条第2項の規定により本会議は成立しておりますことをご報告させていただきます。この会議は、津市情報公開条例第23条により公開となりますのでご理解をお願いいたします。なお、本日の傍聴者はございません。また、会議の内容は、会議録として津市ホームページ上に掲載をいたします。この議事録作成のために会議内容について録音をさせていただきますので、あわせてご理解をお願いいたします。それでは、事項に基づき進めさせていただきます。まず、事項1の「会長と副会長の選任」をお願いしたいと思います。選任方法でございますが、津市献血推進委員会設置要綱第5条により会長、副会長は委員の互選により定めることとなっておりますが、どのようにさせていただきますでしょうか。</p>
横田委員 事務局	<p>事務局のほう何かお考えがあれば教えてください。 わかりました。今、横田委員のほうから事務局のお考えはということでご意見を頂戴しましたが事務局といたしまし</p>

	<p>ては、各委員の皆様のご理解が得られますならば、会長には、前回に引き続き津地区医師会ご推薦の東良久委員に、副会長には、三重県津保健所 保健衛生室 衛生指導課 副参事兼衛生指導課長の樋口奈津子委員にお願いしたいと考えております。いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>(異議なしの声あり) 東委員、樋口委員よろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>(両委員承諾) ありがとうございます。 それでは、皆様の互選により会長に東委員、副会長に樋口委員を選出いただきましたのでよろしくお願ひいたします。ここからは、要綱第6条第1項に基づきまして、会長に会議の議長をお願いしたいと思います。東委員、樋口委員、お席のご移動をお願いします。</p>
東会長	<p>津地区医師会を代表して来させてもらいました東です。1年前に南先生から引継ぎまして会長職をさせていただきます。今期もさせていただきます。よろしくお願ひいたします。それでは事項2「令和4年度津市献血推進事業実績報告について」と事項3の「令和5年度津市献血推進事業計画(案)について」、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>最初に、事項2の令和4年度の津市献血推進事業の実績についてご説明をさせていただきます。お手元の「事項2資料」をお願いいたします。1の献血の実績につきまして、津市の公共施設(津市役所本庁舎、津市上下水道庁舎、津市消防本部)では、令和4年度は計9回献血を実施いたしました。受付け数は216人、うち、献血が可能であった方の数は205人となりました。また、津管内における献血バスでの実績につきましては、令和4年度は158回実施していただき、受付け数は4,997人、献血者数は4,540人となりました。前年度と比較しまして、受付け数は減っておりますが、献血者数は3人増加しております。次に、2の啓発実績につきましては、津市の公共施設で行う献血は、年間を通して、全戸配布する市の広報紙や市ホームページに実施日を掲載し、市民の皆さまに広く献血への協力を呼び掛けました。また、令和4年4月6日(水)に実施した津市の新規採用職員研修では、献血への理解と協力を求める活動の一環として、対象職員70人に啓発チラシを配布しました。さらに、啓発用品として、資料下段の「デザイン①」のウェットティッシュを5,000個作成し、三重県赤十字血液センターが市内で献血を実施される際、献血にご協力いただいた皆</p>

様に配布し、継続した献血にご協力いただけるよう呼びかけを行っていただきました。また、「デザイン②」のウェットティッシュを二十歳のつどい配布用として1,000個作成し、令和5年1月8日（日）の二十歳のつどいにおきまして配布し、参加者への献血協力の啓発を行いました。

次に、事項3の令和5年度津市献血推進事業計画（案）についてご説明させていただきます。別紙「事項3資料」をお願いいたします。年度途中であり、一部実施済みの事業もありますのでご了承願います。1の啓発推進活動としましては、津市の公共施設で行われる献血につきましては、必要血液量の確保に向け、今年度も市の広報紙や市ホームページにおいて献血の実施日時を掲載し、多くの市民の皆様にご協力いただけるよう周知・啓発を行っていきます。次に、既に実施しておりますが、今年度も4月の津市新規採用職員研修において、献血の重要性、職場献血等への協力につきまして啓発チラシを対象職員76人に配布しました。また、今年度も啓発用品を作成・配布したいと考えております。啓発用品につきましては、ウェットティッシュとし、資料中段の2種類のデザインのとおり、「デザイン①」は献血協力者配布用とし、「デザイン②」は二十歳のつどい配布用としてご提案します。献血協力者配布用については5,000個作成し、10月頃を目途に三重県赤十字血液センターにお渡しをし、市内で実施される献血バスによる献血協力者に配布いただく予定をしております。二十歳のつどい配布用については1,000個作成し、令和6年1月7日（日）に実施予定の二十歳のつどい会場で参加者に配布したいと考えております。次に、2の津市の公共施設における献血の実施計画ですが、津市役所本庁舎における献血の実施計画としましては、既に令和5年5月17日（水）に津リージョンプラザにおいて1回実施しており、受付者数は50人、献血者数は46人となっております。今後、9月29日（金）と令和6年1月4日（木）の日程を予定しております。また、津市消防本部におきましては、9月4日（月）、津市上下水道庁舎におきましては、9月14日（木）を予定しております。今後も三重県赤十字血液センターと連携しながら、献血者の確保及び啓発を推進していきたいと考えております。事項2及び事項3の説明は以上でございます。

東会長

どうもありがとうございました。何か質問はないでしょうか。

秋葉委員

私ども今日3人ライオンズクラブの方からお邪魔してお

<p>事務局 東会長</p>	<p>りますが、今年につきましては1月10日から3月10日まで4クラブの合同献血ということで232名くらいの献血をさせていただきました。今年度も同じような形でさせてもらってよろしいでしょうか。クラブの推進の担当とまた話をして集まってやりたいのですがそういう形でよろしいでしょうか。</p> <p>もちろんよろしく申し上げます。</p> <p>次に、事項4の「令和4年度の献血者の動向について」、三重県赤十字血液センターの松原委員、よろしくお願いいたします。</p>
<p>松原委員</p>	<p>それでは令和4年度版献血のあゆみというこの冊子に沿って説明させていただきます。1ページ目にまとめたものを書いてありますが、写真のところに献血推進のポスターが貼ってあります。ポスターをコンペティション、要するに応募してもらってある年度に優秀賞を獲られた方のポスターなのですが「知らないあなたが私のヒーローです」というまさに知らない方が輸血を必要としている人の命を救っているということですので感慨深いものです。実はですね、医療者の立場から言っても手術している患者さんの命が危険な状態を何とか切り抜けて助けてもらったという経験は私も何度もしておりまして、それもあって今の仕事をしているということでもあります。統計の方見ていただきますと献血の受付は約7万人されて実際に献血していただいた方が約6万4千人です。数字のずれというのは7%程度、約8%なのですがいろいろな事情があって血液が薄いとかがありますとなかなかお受けできないものですからその時点で今日は献血延期という形になります。採決前検査というのをして、採血をしてヘモグロビン値をチェックして、それで足りないということが多いとは思いますが。そういうことで善意を持って献血会場で受付された方全員が献血ということでもない、実際のところ受付前にご病気があるのでしたら受付も無理ですと残念ながらお断りしている方もいらっしゃいます。善意の心のある方全員が献血していただけるわけではないということをご理解していただければと思います。ですから絶対数としては志を持ってくれた方がたくさんいるということが大事であるということになります。3ページ目、献血者数の推移ですが、これは令和元年と令和2年の間が新型コロナウイルス感染拡大の境界になるわけですが、コロナということではなくても、スタッフとかあるいは県内の皆様のご協力があって献血者数を伸ばしてい</p>

っているということがあります。同時に血液製剤供給の推移では令和2年、3年と下がってきているのは、やはり医療機関がコロナ治療に集中するという対応では右肩下がりになりつつ、令和4年になったら少しコロナを恐れないということで使用量が増えてきているということになっております。一番今日お伝えしたいと思っているところは三重県の年代別献血者数の推移、先ほど冒頭の挨拶でも強調していただいたところでありまして、若年者層の献血者数の伸びが全然なく、50歳台の沢山の協力で何とかこの事業が成り立っていると言いましょいか、血液の供給が需要に見合ったものが採血できているということだということがこれでわかるかと思えます。今後10年とか20年のことを考えていくと10代、20代の献血者の方を増やしていく、増やしていくということはやはり啓発活動が非常に大事になってくるということで、9ページ10ページを見ていただくと写真付きでわかりやすいです。やはり若い人は若い人たち同士で推進活動したらどうでしょうかというアイデアのもとにキッズ献血で小学生、大体小学生くらいのお子さんを対象にして模擬献血をやっていただいているのですが帯同しているのは白衣を着た高校生ですね。それからツヨインジャーですかね、いろいろこういう被り物被って推進活動をしたり、献血セミナーというので血液ってこうなのですよっていう講義みたいなのをしながら啓発活動をしています。大学生を中心とした三重県学生献血推進連盟「みえっち」などの献血推進団体が、イベントのときに血液センターの職員と一緒に献血推進活動をしているということでもあります。血液事業本部というと事業みたいに思ってしまうのですが、そういう言い方をするとすれば本部の方針としても一番のポイントはそのまま複数回献血をしている方々を大事にしつつも10代の献血者を推進してくださいと指令が下っておりまして、それは厚生労働省からの方針でもありますので、それに基づいて一層推進活動をしているところでもあります。新たに中日新聞の資料を見ていただきますと僕もびっくりしたのですが、これ今日の新聞です。昨日たまたま取材に来てくれて、台風の影響で大変なことになっているということで、台風に関係なくうちの採血もそれほど8月になって進んでおりません。予定より採血数が減っているところに台風の影響を受けた県の分を採らないと、採血しないといけない。そういうのを聞きつけていただいて記事にさせていただいたということになっております。はかったように、中日新聞にお願いし

	<p>たわけではないのですが、もたまたまこういうことになりました。この中日新聞の記事を会議に出すことについては事前に許可を得ています。そして最後に申し上げたいことがございまして、やはりこのコロナ3年間の状況を見てみますと特に献血バスで官公庁、それから職域といいまして企業さんとかいろんなところ、工場とかでやはり一番有効なのが頭を下げてくださいまして呼びかけに行くことです。人と人との交流なものですから。ところがコロナでいきなり血液センターのスタッフが来て話しかけられてもコロナうつたらどうしようとかいうこともあって難しい時期があったのですが、5類になってそれはあまりどうかということで、かつ血液センターでもマスクは推奨ということになっておりまして、献血者にも着用の強要はしておりませんので、していない人もいますし、している人もいます。献血バスが行かれて、うちのスタッフがよろしくお願ひしますという形で職場・職域・官公庁をまわって、できれば自由に活動させていただいて、そういう意味でも新しいウィズコロナの推進活動ということでお願ひしたいです。出席している皆さんにも申し上げにくいのですが、けれどもそのあたりをご理解していただいて血液センターの所長が何かこういふこと言っていたということで所内でも言っていたきたいなというふうに思います。以上です。ありがとうございました。</p>
東会長	<p>ありがとうございました。何か松原委員に対して質問があればよろしくお願ひします。</p>
松原委員	<p>はじめの写真でびっくりしたのですが、松原委員のこんな真面目な顔初めて見たものですから、ちょっと怖そうな顔かなって見ていました。献血の年齢、50歳以上が多いということですね。何歳ぐらいまでなのですか。</p> <p>11ページ目見ていただきますと条件さえ合えば69歳まで男性の方は献血が可能です。女性の方は血小板だけは54歳までということなのでこのパンフレットを見ますと結構50歳台以上の対象の年齢が結構あるということかと思ひます。ただし65歳から69歳の間は初回献血者としては少し難しいのですが。過去5年間に献血歴があつて健康だという実績がございましたら献血可能です。統計的にも年齢の幅がちょっとずつ違ふということでもありますけれどもそれとともに10代も実際は16歳から献血ができるので年齢の幅としては狭くなつていまして、よく言われるのは10代20代若年者という捉え方をされるというのがあります。</p>
東会長	<p>一応対象年齢は50歳台以上が多いということですね。</p>

松原委員	50代の方、普通はいろんなお薬飲んでいたりして献血できる可能性が減ってはくるだろうということです。
東会長	例えば血圧の薬飲んでいる、高脂血症の薬飲んでいるとかそういうのは。
松原委員	それはあるときから高血圧の薬とか高脂血症の薬を飲んでいる人口がすごく増えてきたということで、ちょうど50代が増えてく頃だと思えるのですが、当日高血圧の普通の薬ですね、当日飲んでいても大丈夫。高脂血症の薬も大丈夫。糖尿は昔から駄目でした。
東会長	もう一個いいですか。貧血の患者さんは当然だめだと思うのですが、ヘモグロビンの量ですよ。男の人は何gくらいまでは。
松原委員	11ページに書いてあるのですが、400mL血液採取して、13gなのですね、ヘモグロビン値。女性だと12.5gということですが、手術するとき例えばこれくらいヘモグロビン値がないと手術しないかといったら全然そんなことないので基準がかなり高めに設定されています。女性の人で12.5gっていう人はなかなか少なくお気持ちがあってもヘモグロビン値が足りませんでしたってことで採血前検査の段階でお帰りになっていただくということはしばしばですね。
東会長	どうもありがとうございました。他に何か質問があったらお受けしたいと思いますが。
秋葉委員	若者の献血者数が少ないということなのではけれども、我々の思っている価値観とは全く今の若い者は違うような気がします。遊びに行くところ、いろんなこと、出掛けるところとか献血車があるところにはあまり行かないのかもしれない。価値観も全く違うと思うのでね。そのへんのところ分析してどうしたら若者がするかというのを皆で考える必要があるかなと思います。今の我々の考えとは全く違うような気がしますのでね。
松原委員	そういうことも十分考えた上で若者が若者の世代をいろいろ考えて推進活動をする。私たちが助言しつつもお任せする形でやっていただいていますので、そのあたりは当センターとしても理解した上で活動していただいております。
秋葉委員	献血推進する上で我々も知識を持っていかなくてはいけないと思っています。間違っていたら訂正をいただきたいのですが、昔は売血があって、血は買ってもらっている時代があったと思うのです。それが献血になってお金の貰えなくなった。そういったところで赤十字社というのはどっか

松原委員

らお金が入って来るのかなという疑問があります。社長はどなたでした、お金は献血した血をお医者さんたちに買ってもらっている。それでいいですか。400 mL というのはリスクを少なくするためですね。

400 mL というのは正確に言うとリスクを少なくすると言いましょか200 mL を、これは従来の考え方なのですが、200 mL を2パック輸血するよりは一人の方の400 mL を輸血した方が、副反応が起きにくいと。それから万が一肝炎とかすごく検査してあったとしましてもウィンドウ期間というのがあります、ごく最近感染したのであれば最高感度であっても引っかけられない可能性がありますのでそういうリスクを下げることもできるかと。そういうことで400 mL のほうがいいということであったのですが、検査の感度が良くなっていますので200 mL でも悪くないじゃないかという考えの方もいて、実はいいところをついていらっしやって4ページ目見てわかりますけど400 mL の推進の推移ということになっておりますけども200 mL の割合は平成25年からずっと減ってきているわけなのですけども、ということは400 mL の割合が増えていると。三重県は平成25年から殆ど99.6%ということで全国平均よりはるかに200 mL を採らずに400 mL を採っていると。これもそういうことなのですけれども若年者の献血者数が伸びないと。例えば高校生の方が採血しようかといったときに初めての献血で緊張されていたりとかして200 mL のほうが初回としてはお試しコースみたいな感じでこちらとしても勧めやすいので200 mL も若年者の推進としてはやむを得ないじゃないかという考え方も少し出てきておまして、99.6%じゃなくて98.2%とかいうことになってきている。そういうことでは医学的なリスク云々を減らせれば初回献血としては200 mL もいいのではないかということなのですけども。医療現場にいくといざ成人の人で輸血するといったらわざわざ200 mL ぐらい輸血する人はいないものですからするとすれば400 mL 以上を入れることが多いので200 mL を2回輸血しようと思うと1回毎にいろんな検査をして看護師さんと医師でダブルチェックして患者さんに点滴するとき立ち会って15分間はずっと見ていないといけないのでそういうのを考えると1人から採ってきた血液を輸血したほうが医療機関の作業としても効率がいいと医療業界は考えてらっしゃいますから一方向だけでは考えにくいところがあります。何を一番優先するかということなのです

<p>秋葉委員</p>	<p>けども、ゼロ百の世界ではないので5%くらいは緊張されている高校生の方にしようとかいろんな考え方があるかと思えますけども、種明かしをするとなかなか一筋縄ではいかないです。</p> <p>もう少しいいですか。献血をして名古屋に送って精製をします。何日間くらい保管できるもの、いらなくなったら捨てていると聞いたのですけども。</p>
<p>松原委員</p>	<p>それは必要量、瀬戸市なのですけど血液製剤としてちゃんとできましたら三重県に必要なものをいちいちそこに取りに行っているとよろしくないものですから少なくとも新鮮凍結血漿とか赤血球製剤については予定必要量みたいなものを津の血液センターの冷蔵庫および冷凍庫で保管しております。いざとなったら津の血液センターに電話してもらって、例えばO型の赤血球が10単位必要なので持ってきてくださいと言われてたら持っていくということになります。血小板という止血するのに大事な血球があるのですけど、それは4日間しか使えないものですから検査をして製剤にして出庫するとなると現実的には2日間しか使えないのでそれはもう必要量の予定を医療機関に事前に、あるいは急なこともあるのですけども早めに言ってもらって予定で使うということでしたら前日には瀬戸のほうからうちのセンターに持ってきてもらってそこからうちで保存、半日とか一晩とか置いた上で医療機関に持って行きます。各血液製剤の種類によって少し違うということです。一番調整が難しいのは血小板ということですね。ましてや血小板については細菌感染が起こりうる可能性があるので常温で保存するものですから細菌検査をしてスクリーニングをして培養で細菌が出なかったら出荷するという方針に変えるということなので近いうちには採血して5日目と6日目のものが使えるという形に変わってくるかと思えます。複雑なのでこれもまたやり方が変わる度毎に医療機関に説明に行かないといけない。そういう仕事も血液センターやっておりますして日夜頑張っております。よろしかったですか。</p>
<p>東会長</p>	<p>時間の関係で次に行きたいと思えます。最後に、事項5の「津市骨髄移植ドナー支援事業について」、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>はい、説明させていただきます。津市骨髄移植ドナー支援事業についてご説明をさせていただきます。お手元の「事項5資料①」をお願いいたします。市では、より多くの骨髄等の移植の実現とドナー登録者数の増加を図るために骨髄移</p>

	<p>植ドナーとなった市民とそのドナーを雇用している市内事業者を支援する「津市骨髄移植ドナー支援事業」を平成27年4月1日から実施をしております。支援内容については助成金の交付対象者は骨髄移植ドナーとなった市民と、そのドナーとなった方を雇用している津市の区域内で事業を行う事業者としております。助成金の額については、骨髄等の提供のために通院・入院などに要した日数に応じて、最大7日を上限として、ドナーとなった方は1日につき2万円、ドナーとなった方を雇用する事業者に対しましては、1日につき1万円を助成させていただいております。なお、骨髄移植ドナー支援に係る要綱や申請書は、津市ホームページからダウンロードすることが出来ます。また、実績としましては、ドナーとなった方に対して、令和2年度は1人、令和3年度は2人、令和4年度は1人、助成金の交付を行っております。なお、本年度につきましてはまだ実績はございません。骨髄移植は献血同様、個々の皆様の理解と善意が必要となっております。お手元の「事項5資料②」のとおり、事業啓発用のチラシもご用意しておりますので、一人でも多くの方にドナー登録していただきますよう、委員の皆様からも当該支援事業をご案内いただければ幸いと存じます。説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。</p>
東会長	<p>ありがとうございました。今の説明に対して何かご質問あったら。</p>
秋葉委員	<p>子どもが生まれたときの女性の胎盤からとれる臍帯血が適合するという話を聞いているのですが、臍帯血をとる装置が病院にないということらしいのですがどういったことは説明ないでしょうか。ご存知ではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>装置についての例えば市からの支援というようなところでしょうか。</p>
秋葉委員	<p>だいぶ前からその話出ていますので。いちいち適合なんか、ドナーって調べないと合わないじゃないですか。臍帯血は少々、リスクはあるのでしょうか。誰にでも合うというような情報もあるのでお調べになって推進をすればどうかと。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。不勉強で申し訳ありません。そのところも勉強いたしまして考えていきたいと思っております。ありがとうございます。</p>
東会長	<p>年間何人ぐらいが登録されるのですか。大体。ここにある1人2人っていうのは交付した対象が1人ということでしょうか。令和4年度に1人登録した人がおったということですか。</p>
事務局	<p>今数字を持ってはおりませんが、今回登録をした人の数が</p>

東会長	<p>1人というわけではなくて補助の対象として交付をさせていただいた方が1人実績としてあるということになります。</p> <p>わかりました。それだけしかおらんということではないですね。その他何かあれば、僕も臍帯血よくわからないものではないです。今の説明に対して他によかったですか。もしなければよろしいですね。どうもありがとうございました。本日の事項は以上となります。これで今回の献血推進委員会を終わりたいと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。いただきましたご意見につきましては、今後の献血推進事業に活かしてまいりたいと思いますので、委員の皆様におかれましても、それぞれのお立場のなかで献血推進へのご協力をお願いいたします。これをもちまして令和5年度津市献血推進委員会会議を終了いたします。お忙しい中、ありがとうございました。</p>